



MEDIA RELEASE • COMMUNIQUE AUX MEDIA • MEDIENMITTEILUNG

2006年1月23日

報道関係各位

ノバルティス(スイス)が発表しましたリリースの日本語訳(抜粋)をご参考までにお届けします。

ノバルティス2005年業績：売上高・利益ともに過去最高を更新

2006年1月19日、バーゼル発

- 医薬品ならびに買収効果によるサンド(ジェネリック医薬品)のダイナミックな売上拡大に支えられ、グループ全体の売上高は前年比14%増(現地通貨ベース13%増)に
- 医薬品は引き続き市場シェアを拡大し、戦略製品の好業績により売上高は前年比10%増(現地通貨ベース9%増)を達成
- グループ全体の営業利益は前年比10%増加。医薬品の営業利益は、生産性向上により前年比12%拡大し、売上高営業利益率は前年比0.7ポイント増の29.7%に
- 当期純利益は前年比10%増の61億米ドル、1株当たり当期純利益(EPS)は11%増の2.63米ドルに
- フリーキャッシュフローは、42%増の47億米ドル
- 株主総会に提案する配当金は、前年比10%増の1株当たり1.15スイスフラン
- 2006年は次の大型開発品の承認申請を予定：Galvus(開発記号:LAF237、2型糖尿病治療薬)、Rasilez(同:SPP100、高血圧症治療薬)およびLDT600(B型肝炎)

主要数値

2005年(1~12月)

	2005年			2004年		前年比(%)	
	百万米ドル	億円	売上高比(%)	百万米ドル	売上高比(%)	米ドルベース	現地通貨ベース
売上高	32,212	35,433		28,247		14	13
医薬品	20,262	22,288		18,497		10	9
サンド	4,694	5,163		3,045		54	54
コンシューマーヘルス	7,256	7,981		6,705		8	8
営業利益	6,905	7,595	21.4	6,289 ⁽¹⁾	22.3	10	
当期純利益	6,141	6,755	19.1	5,601 ⁽¹⁾	19.8	10	
1株当たり当期純利益(ADSベース)	米ドル	円		米ドル		11	
	2.63	289		2.37 ⁽¹⁾			

(1) 2005年の会計基準ベース：本業績報告書は、2005年1月1日に適用された新国際財務報告基準(IFRS)を採用しており、報告上のその他変更も行われています。2004年の数値は、2004年にすでに会計基準の変更が行われていたとみなし変更した数値で示しています。

- 日本円は、便宜上1米ドル=110円(2005年のおよその期中平均レート)で換算したものです。
- ADS = American Depositary Shares(米国預託株式)

2005年第4四半期（2005年10～12月の3カ月間）

	2005年第4四半期			2004年第4四半期		前年同期比(%)	
	百万米ドル	億円	売上高 比(%)	百万米ドル	売上高 比(%)	米ドル ベース	現地通貨 ベース
売上高	8,657	9,522		7,578		14	18
医薬品	5,248	5,772		4,969		6	9
サンド	1,573	1,730		867		81	91
コンシューマーヘルス	1,836	2,019		1,742		5	9
営業利益	1,488	1,636	17.2	1,500	19.8	-1	
当期純利益	1,352	1,487	15.6	1,354	17.9		
1株当たり当期純利益 (ADSベース)	米ドル 0.58	円 63		米ドル 0.58			

ノバルティス会長兼最高経営責任者のダニエル・バセラ（Dr. Daniel Vasella）は、2005年の業績について次のようにコメントしています。「2005年も引き続き過去最高の好業績を発表できたことをうれしく思います。私たちは市場シェアを拡大するとともに、高い成長性が期待でき、医療ニーズの高い事業領域で市場地位をさらに強化するための戦略的買収を実施しました。また、この好業績のおかげで、社会貢献活動であるAccess to Medicineプログラムへの資源投入を拡大することができ、2005年はこのプログラムを通じ650万人の方々が治療薬を手にし、寄付あるいは原価で提供した医薬品の価値は6億9,600万米ドルに上りました。2006年もダイナミックな成長を続け、過去最高の売上高と利益を達成できると考えています」

売上高

2005年通期（1～12月）

- グループ全体の売上高は、前期比14%増（現地通貨ベース13%増）の322億米ドルとなりました。医薬品ならびにヘキサル、イオン・ラブズの買収が寄与したサンド（ジェネリック医薬品）のダイナミックな売上成長、および特にOTCが好調だったコンシューマーヘルスの好業績が増収に貢献しました。売上高を押し上げた主な要因は販売量の増加であり、前年比の増加率に対し9ポイントの寄与がありました。為替変動は1ポイント、事業買収は5ポイント、それぞれ売上増に貢献しました。グループ全体における価格変動は、1ポイントのマイナス要因となりました。グループ全体の売上高に占める割合は、医薬品が63%、サンドが15%、コンシューマーヘルスが22%でした。地域別には、米国が引き続き最大の39%、ヨーロッパが37%、その他の地域が24%となりました。
- すべての地域で市場の成長を上回るダイナミックな伸びを達成した結果、医薬品の売上高は前年比10%増（現地通貨ベース9%増）の203億米ドルとなりました。循環器およびオンコロジー領域は2桁成長を続けながら、それぞれ50億米ドル以上の売上高を記録しました。「ディオバン」「ロトレル」「グリベック」などの主力製品は、各薬効領域で売上No.1の製品となりました。フェマラーの売上高は、新データの発表により市場地位がさらに強化された結果、前年比で40%近く増加しました。売上高の増加率に対し、販売量増加と製品構成（プロダクトミックス）の変化は9ポイント、為替変動は1ポイントのプラス要因となりました。価格変動による影響はありませんでした。
- サンドの売上高は、ヘキサル（6月6日以降）、イオン・ラブズ（7月20日以降）からの売上貢献があり、前年比54%増（現地通貨ベース54%増）の47億米ドルとなりました。これらの買収効果を除いたサンドの売上高は、小売ジェネリック医薬品の欧州・ロシアでの販売好調および米国での新製品投入により、前年比9%増（現地通貨ベース8%

増)となりました。

- コンシューマーヘルスの売上高は、8%増(現地通貨ベース8%増)の73億米ドルとなりました。OTCが戦略ブランドへの集中強化ならびにプリストル・マイヤーズ スクイブ社の北米OTC事業買収による貢献により2桁成長を達成したことが主な要因です。この買収は2005年9月1日付で実施され、これによりコンシューマーヘルスの売上高に1億米ドルが上乘せされました。

第4四半期(2005年10~12月)

グループの売上高は前年同期比14%増(現地通貨ベース18%増)の87億米ドル

各事業部門の力強い好業績を反映し、売上高は高い伸び率を維持しました。ダイナミックな売上拡大により、ノバルティスは、IMSヘルスによる世界ヘルスケア市場でのシェア(医薬品とサンドを含む)を前年同期の5.0%からさらに伸ばし、2005年1~11月の11カ月間のシェアは5.3%となりました(ヘキサル、イオン・ラブズを含む)。同期間における医薬品のシェアは、前年の3.8%から3.9%に上昇しました。売上高の増加率に対し、販売量増加は9ポイント、買収は10ポイントのプラス影響がありました。為替変動は4ポイントのマイナス要因となり、価格変動も1ポイントのマイナス影響を与えました。

医薬品の売上高は前年同期比6%増(現地通貨ベース9%増)の52億米ドル

数多くの主力製品が2桁成長を達成し、市場シェア拡大に貢献した結果、第4四半期の医薬品売上高は、前年同期比6%増(現地通貨ベース9%増)となりました。循環器領域の売上高は、血圧コントロールの必要性に対する認識が高まる中、「ディオバン/コディオバン」と「ロトレル」が力強い売上成長を継続した結果、前年同期比16%増(現地通貨ベース20%増)となりました。オンコロジー領域の売上高は、「フェマーラ」「グリベック」「ゾメタ」の新たな臨床試験データの発表が寄与し、15%増(現地通貨ベース19%増)となりました。

米国の売上高は、「ディオバン」「ロトレル」「グリベック」「フェマーラ」「ゼルマック/ゼルノーム」など数多くの製品が力強い売上成長を示す一方、一部に「エリデル」の売上減、「サンドスタチン皮下注」の後発品との競争激化、「ビスダイン」の競争激化などのマイナス要因もあり、前年同期比14%増の22億米ドルとなりました。欧州の売上高は、「ディオバン」および「グリベック」の好業績が、いくつかの国における「ラミシール」「フォラジール」の後発品による影響をカバーし、前年同期比2%減(現地通貨ベース6%増)となりました。世界第二の医薬品市場である日本では、売上高は3%減(現地通貨ベース8%増)となりました。新興成長市場では好業績が続ぎ、トルコ、中国、ロシアの好調により、売上高は10%増(現地通貨ベース14%増)となりました。

サンドの売上高は、81%増(現地通貨ベース91%増)の16億米ドル

ヘキサル、イオン・ラブズを除いたサンドの第4四半期売上高は、前年同期比2%増(現地通貨ベース9%増)となり、厳しい市場環境の中、好業績を達成しました。イタリア、ドイツ、ロシア、フランスならびに新製品投入が奏効した米国の好調が、売上増を支えました。感染症治療薬事業は、2桁成長を達成しました。ヘキサル(3カ月間の売上高を連結)、イオン・ラブズ(4カ月間の売上高を連結)は、サンドの第4四半期の売上高に6億8,800万円寄与しました。これは当初の期待を上回る好業績であり、米ドルベースの売上増加率に対し、79ポイントの貢献を示しました。

コンシューマーヘルスの売上高は、5%増(現地通貨ベース9%増)の18億米ドル

OTCの堅調な売上成長に支えられ、コンシューマーヘルスの第4四半期売上高は5%増(現地通貨ベース9%増)となりました。OTCの売上増には、米国での風邪の流行と、7,200万米ドルの売上貢献のあったプリストル・マイヤーズ スクイブ社の北米OTC事業買収が寄与しました。ガーバー(乳幼児用栄養食品から名称変更)は、米国での売上拡大が寄与し、2桁成長となりました。医療用栄養食品(ニュートリションとサンテを含む)の売上高は、主要地域で

の好調が、米国での価格低下圧力ならびにドイツでの保健ガイドライン変更による影響により相殺され、前年同期比横ばいとなりました。アニマルヘルスの売上高は、米国において秋の需要が減少した結果、前年同期から減少しました。チバビジョンは、「O₂オプティクス」の発売成功がありましたが、レンズケア製品の供給問題があり、売上高は前年同期と比べ減少しました。

営業利益

2005年（1～12月）

	2005年			2004年		前年比(%)
	百万米ドル	億円	売上高 比(%)	百万米ドル	売上高 比(%)	米ドルベース
医薬品	6,014	6,615	29.7	5,366	29.0	12
サンド（ジェネリック）	342	376	7.3	263	8.6	30
コンシューマーヘルス	1,055	1,160	14.5	1,006	15.0	5
法人収益/費用（純額）	-506	-556		-346		
営業利益 計	6,905	7,595	21.4	6,289	22.3	10

2005年第4四半期（2005年10～12月の3カ月間）

	2005年第4四半期			2004年第4四半期		前年同期比(%)
	百万米ドル	億円	売上高 比(%)	百万米ドル	売上高 比(%)	米ドルベース
医薬品	1,358	1,493	25.9	1,341	27.0	1
サンド（ジェネリック）	119	130	7.6	28	3.2	325
コンシューマーヘルス	190	209	10.3	175	10.0	9
法人収益/費用（純額）	-179	-196		-44		
営業利益 計	1,488	1,636	17.2	1,500	19.8	-1

2005年（2005年1～12月）

- グループの営業利益は、販売量の大幅な増加と生産性向上が、買収に伴う一時的費用に一部相殺された結果、売上高の伸びをわずかに下回り、前年比10%の増加となりました。
- 医薬品の営業利益は、売上高の伸びを上回る12%の増加を示しました。あらゆる分野における生産性の向上と、それに伴う売上高営業利益率の改善（2004年から0.7ポイント改善し、29.7%）が主な要因です。欧州でのCibadrex/Cibacenの権利譲渡による2億3,100万米ドルの一時的収益、ならびにRestasis[®]のライセンス権売却益が、ノバルティスが開発品NKS104（pitavastatin）に市場競争力がなくなったと判断したことに伴う3億3,200万米ドルの減損を一部補いました。
- サンドの営業利益は、好業績により30%増の3億4,200万米ドルとなりました。ヘキサール、イオン・ラブズによる3億4,400万米ドルの営業利益貢献が、一時的な買収・統合関連費用2億3,700万米ドルと無形固定資産償却費1億米ドルの合計を上回ったことも増益要因です。2005年半ばの買収以降、ヘキサールとイオン・ラブズの両事業は期待を上回る好業績を達成しました。
- コンシューマーヘルスの営業利益は、戦略ブランド強化に向けた投資と買収関連費用により、売上高の伸びを下回り、前年比5%増となりました。ブリストル・マイヤーズスクイブ社北米OTC事業の買収により、1,700万米ドルの営業利益貢献がありましたが、買収に伴う一時的費用の4,000万米ドルがそれを大きく上回りました。

第4四半期（2005年10～12月）

グループの営業利益は前年同期比1%減の15億米ドル

営業利益は、医薬品事業におけるNKS104に関わる2億6,600万米ドルの減損およびその他の一時的費用により、前年同期と比べ1%減少しました。本四半期および前年同期の営業利益から一時的費用の影響を除いた場合、営業利益は21%増となります。

医薬品の営業利益は1%増の14億米ドル

特に販売・マーケティング面での生産性向上が、特殊要因を除いた場合の営業利益を前年同期比で21%押し上げ、売上高営業利益率も31%と前年同期から改善しました。しかしながら、NKS104に関わる一時的費用により売上高営業利益率は25.9%となり、報告上の最終営業利益は前年同期比1%増となりました。売上原価率は、生産性向上と製品構成（プロダクトミックス）の改善により0.7ポイント改善しました。米国における喘息治療薬「ゾレア」の貢献により、その他収益が売上高営業利益率の改善に0.6ポイント寄与しました。研究開発費は前年同期比32%増となりましたが、減損の影響を除くと3%の増加にとどまります。特に米国における生産性向上により、売上高に占める販売・マーケティング費の割合は2.9ポイント低下し、32.5%となりました。この販売・マーケティング費における生産性向上は、*Enablex*、*Exjade*ならびに欧州における「ゾレア」の発売および発売準備のための投資により一部相殺されました。一般管理費は、前年同期からわずかに減少し、売上高営業利益率の改善に対し0.3ポイントのプラス作用を与えました。

サンドの営業利益は大幅に増加し、1億1,900万米ドルに

ヘキサル、イオン・ラブズの買収影響および一時的費用を除いたサンドの営業利益は、前年同期比23%増となりました。感染症治療薬および欧州における販売量の大幅な増加が、継続的な費用削減努力と業務効率化に下支えされたことが要因です。ヘキサル、イオン・ラブズの買収により、営業利益に対し1億5,500万米ドルの貢献がありましたが、統合費用および統合に伴う事業再構築費7,800万米ドル、無形固定資産の償却費3,300万米ドルにより一部相殺されました。

コンシューマーヘルスの営業利益は9%増加し、1億9,000万米ドル

第4四半期の営業利益は、前年同期から9%増加しました。プリストル・マイヤーズ スクイブ社の北米OTC事業買収に関わる統合関連費用は2,400万米ドル、本買収に伴う営業利益への貢献は800万米ドルでした。OTCは戦略ブランドへの集中により利益成長に貢献しました。

2005年のグループの当期純利益は、10%増の61億米ドル

2005年の当期純利益は、前年の56億米ドル（2005年の会計基準ベース）から10%増加し、61億米ドルとなりました。売上高に対する比率は、買収により一時的な買収・事業再構築費用が発生したこと、ならびに純金融収益の減少により、前年の19.8%から19.1%に低下しました。

カイロン社の買収は計画通り進行中で、2006年前半に完了予定

カイロン社（Chiron Corporation）の買収・統合計画は、2006年前半の完了に向け計画通り進行しています。ノバルティスが現在保有していない56%の株式を取得するという当社の提案について採決を行う、カイロン社の株主総会は2006年初頭に行われる予定です。（買収発表時、ノバルティスはカイロン社株式の約42%を保有しており、その後12月にさらに約2%を3億米ドルで取得しました。）ノバルティスは、すでに米国当局からカイロン社買収についての承認を得ています。欧州を含むその他地域での承認も、まもなく得られる見込みです。この買収により、年間2億米ドル相当のシナジー効果を実現するものと期待されます。

買収後、カイロン社のワクチンと血液診断事業は、現在の医薬品、サンド、コンシューマーヘルスの事業部門に加え、ノバルティスの新たな事業部門として設立されることとなります。同社のバイオ医薬品事業は、ノバルティスの医薬品事業部門（主にオンコロジーと呼吸器・

感染症疾患領域)に統合されます。ノバルティスは同社事業に対し相当の経営技術を投資する計画であり、特に、2006/2007年以降のインフルエンザ流行シーズンに確実にワクチン供給を行えるよう注力していきます。このため、イギリス・リバプール、ドイツ・マールブルクにあるカイロン社生産工場の改善と、細胞培養生産などの新規技術の開発を行います。

サンドへの事業統合効果は、計画を上回る進展

サンドは、2005年のヘキサル、イオン・ラブズの買収・統合に伴う今日までの成功に基づき、今後も成長を続けることが期待されます。ノバルティスは、統合により期待される年間シナジー効果の目標額である2億米ドルを、買収完了後3年以内に達成できると考えています。そのうち50%は18カ月以内の実現する見込みです。ヘキサル、イオン・ラブズは期待を上回る好業績を達成しており、14億米ドルの売上貢献を実現しています。さらに、3億4,400万ドルの営業利益への貢献は、2億3,700万米ドルの買収・統合関連費用と1億米ドルの無形固定資産償却費用の合計額を上回りました。

グループの今後の見通し(不測の事態ならびにカイロン社買収の影響を除外)

ノバルティスは、新製品の発売や評価の高い開発パイプラインの拡充により、2006年もダイナミックな成長を続けると予測しています。グループの売上高は、現地通貨ベースで1桁台後半、医薬品の売上高は1桁台半ばから後半の成長率となる見込みです。2006年の営業利益と当期純利益は、過去最高レベルを達成すると予想しています。

医薬品事業ならびに主要製品のハイライト

注：特に記載されていない場合、増減率はすべて現地通貨ベースの全世界売上高に関するものです。Q4は2005年第4四半期を指します。

ジェネラル・メディシン

世界No.1のアンジオテンシン受容体ブロッカー（ARB）である「ディオバン」（2005年：37億米ドル、19%増）（Q4：9億9,400万米ドル、26%増）は、力強い成長を続けました。米国での売上高は、第4四半期に低い在庫レベルが正常化されたことによるプラス影響がありました。第4四半期の伸び率は、年間の伸び率をわずかに下回りました。主な牽引要因には、追加適応の取得や、さらに有効性の高い「コ・ディオバン」（ディオバンと利尿剤の合剤）の世界各地での発売、米国での疾患啓発プログラム（“BP Success Zone”）があります。「ディオバン」は、高血圧症、心筋梗塞後ハイリスク患者（VALIANT試験）および心不全（Val-HeFT試験）の適応症を持つ世界唯一のARBです。米国において「ディオバン」は、ARB市場で38%のシェアを持つマーケット・リーダーです（出所：IMS）。

2002年以来、米国No.1の高血圧症治療の配合剤であり続けている「ロトレル」（米国でのみ販売）（2005年：11億米ドル、17%増）（Q4：2億9,700万米ドル、17%増）は、複数の薬剤によりさらに積極的な降圧治療を行うことを推奨する新ガイドラインと、米国での疾患啓発キャンペーンが後押しとなり、力強い2桁成長を継続しました。

爪白癬治療の世界トップブランド「ラミシール」（2005年：11億米ドル、2%減）（Q4：2億5,100万米ドル、13%減）は、後発品の攻勢により欧州において全体的に低い売上高となりました。米国では、競合品イトラコナゾールの後発品の市場参入があったものの、売上高がわずかに増加し、トップシェアを維持しました。

「ゼルノーム/ゼルマック」（2005年：4億1,800万米ドル、39%増）（Q4：1億2,300万米ドル、69%増）は、便秘型過敏性腸症候群（IBS-C）の画期的治療薬であり、慢性特発性便秘の初めてかつ唯一の医療用医薬品です。本剤の治療上のベネフィットと疾患認知度の高まりを反映し、米国およびその他の主要市場において力強い2桁成長を継続しました。第4四半期の米国売上高は、新たに取得した慢性便秘の適応症での使用が引き続き増加したこと、前年同期に平均以下であった在庫レベルが正常化したことにより牽引されました。ノバルティスは、欧州医薬品審査庁（EMA）で採択された「ゼルノーム」のEU承認に反対すべきとの勧告に対し、異議申し立てを行うつもりです。本剤は、IBS-Cの女性患者さんに対する治療薬として56カ国で承認されています。

「エリデル」（2005年：2億7,000万米ドル、23%減）（Q4：5,300万米ドル、42%減）の第4四半期の売上高は、FDA諮問委員会が2005年3月に採択した見解の影響を受け、大幅に減少しました。FDAとの協議の結果、「エリデル」（クリーム剤としてのみ販売）の添付文書は、2006年の初めに改訂されました。ボックスワーニングと「治療の手引き」では、「エリデル」使用と市販後の稀な悪性腫瘍の報告に因果関係を示すものがないことが明らかにされています。潜在的発がんリスクに関するFDAの懸念は、高用量の経口カルシニューリン阻害剤を服用したケースに基づいています。同様の添付文書改訂は、同じクラスの他の薬剤でも行われます。ノバルティスは、この処置を科学的あるいは臨床上の根拠に基づかないものであると考えていますが、添付文書の改訂に同意し、添付文書記載の内容に基づいた「エリデル」によるアトピー性皮膚炎の治療が継続されるよう、今回の改訂について医師および患者さんに情報提供を行っていきます。「エリデル」は世界で最も徹底的に研究された皮膚科用剤の一つであり、ノバルティスは、今後も現在実施中の臨床試験により実証されていくであろう「エリデル」の安全性と有効性に自信を持っています。

スペシャリティー・メディスン

オンコロジー

フィラデルフィア染色体陽性（Ph⁺）の慢性骨髄性白血病（CML）のあらゆる病期とある種の消化管間質腫瘍（GIST）の治療薬「グリベック」（2005年：22億米ドル、32%増）（Q4：5億9,000万米ドル、32%増）は、CMLとGIST両市場へのさらなる浸透により、力強い成長率を維持しました。好業績は、平均一日用量の増量ならびに生存ベネフィット改善による患者数の増加にも後押しされました。IRIS試験のデータによると、新たに診断された慢性期CML患者さんでは、「グリベック」の服用により、その90%以上が4年半以上生存していることが明らかになりました。さらに、4年目に病状が進んだ患者さんは1%以下であり、全般的進行率が減少していることが示されました。2005年に「グリベック」は、慢性期のCMLおよび低用量で病状が進行しているGISTの患者さんにおける平均一日用量を、400mgあるいは600mgから800mgに増量することについて、EUで承認を取得しました。「グリベック」のPh⁺急性リンパ性白血病（ALL）の適応症は、米国、EUならびに日本で承認申請中です。

悪性腫瘍の骨転移治療に最も多く使われているビスホスホネート注射剤の「ゾメタ」（2005年：12億米ドル、13%増）（Q4：3億1,400万米ドル、11%増）は、成熟した米国市場において、セグメント・シェアが過去最高の75%に到達しました。前立腺がんおよび肺がんでより多く使用されましたが、すでに高い市場浸透率を獲得している乳がん、多発性骨髄腫での伸び率は低下しました。EUにおいて、「ゾメタ」は競合品参入にもかかわらず市場シェアを伸ばしています。

閉経後の早期および進行性乳がん治療の第一選択薬「フェマーラ」（2005年：5億3,600万米ドル、38%増）（Q4：1億4,600万米ドル、32%増）は、タモキシフェンによる5年間の治療終了後のエクステンディド・アジュバント療法の浸透率がさらに高まったことが追い風となりました。主要学会で発表された画期的なMA-17試験の新データでは、抗がん治療を中止してから長期間が経過している閉経後早期乳がん患者においても、「フェマーラ」投与による有意な効果が認められることが確認されました。さらに、2005年12月、「フェマーラ」はホルモン感受性の早期乳がん患者に対して手術直後に実施される初期治療（術後アジュバント療法）の適応に関し、米国で承認を取得しました。これにより「フェマーラ」は、初期治療（インシナル・アジュバント療法）ならびに5年間のタモキシフェン療法後の治療（エクステンディド・アジュバント療法）の両方の適応を取得している同系統の薬剤の中で唯一の薬剤となります。米国におけるこの新適応症は、*The New England Journal of Medicine*12月号で初めて発表されたBIG 1-98試験に基づいています。本適応症は欧州でも申請されており、イギリスではすでに承認されました。日本では、乳がんの適応について承認申請中です。

ホルモンの過剰な分泌により起こる先端巨大症ならびに消化管ホルモン産生腫瘍治療のリーディング医薬品「サンドスタチン」（2005年：8億9,600万米ドル、8%増）（Q4：2億2,400万米ドル、3%増）の全世界売上高は、前年同期比横ばいとなりました。皮下注射製剤が後発品との競争に直面した米国では、売上高は減少しました。しかしながら、長時間作用型LAR製剤は、米国および米国以外のその他地域において2桁成長を記録しました。

眼科

滲出型加齢黄斑変性（AMD）治療のトップ製品「ピスタイン」（2005年：4億8,400万米ドル、7%増）（Q4：1億700万米ドル、9%減）の2005年の売上高は、現地通貨ベースで前年比7%増加しましたが、第4四半期の売上高は、適応外使用の競合品の参入により減少しました。しかしながら、イギリス、ドイツ、フランスなど、米国以外のその他地域では、現地通貨ベースで前年同期比18%増と好調でした。

移植

「ネオーラル/サンディミュン」（2005年：9億5,300万米ドル、6%減）（Q4：2億4,100万米ドル、5%減）の売上高が後発品の影響により減少した結果、移植領域の2005年の売上高は現

地通貨ベースで1%減少しました。

開発品目ならびに承認申請の進捗状況

ノバルティスは、医薬品業界で最強レベルの開発パイプラインを持つ企業であると常に評価されています。特に研究開発における生産性の高さと、真に革新的な化合物の開発に傾注している点で定評があります。現在、76のプロジェクトを臨床開発中であり、そのうち50がフェーズII、IIIまたは申請中の段階にあり、45プロジェクトは新規化合物（NME）です。

第1四半期に予定されている*Galvus*（2型糖尿病）および*Rasilez*（高血圧症）の米国での申請など、いくつもの重要プロジェクトの承認申請を2006年に行う計画です。最新の進捗状況は以下のとおりです。

- *Galvus*¹（一般名：vildagliptin；開発記号：LAF237）は、2型糖尿病治療における初の経口DPP-IV阻害剤となる可能性を持つ薬剤であり、2006年第1四半期の米国申請に向け順調に進捗しています。EUでの承認申請は2006年末までに行われる予定です。新データでは、単独療法ならびに他の糖尿病治療薬との併用において、*Galvus*が用量依存かつ臨床的に有意にHbA1c値（長期間にわたる平均血糖値の指標）を低下させることが示されました。特にメトフォルミンとスルホニルウレアとの併用試験において、HbA1c値を相加的に大きく低下させる効果が示されました。また、*Galvus*は体重増加や浮腫を伴わない優れた忍容性を示すとともに、1年以上にわたりHbA1c値の有意な低下作用を継続させています。膵島細胞機能障害に対する画期的な作用により、*Galvus*は2型糖尿病の有効な新規治療薬となる可能性を秘めています。
- *Rasilez*¹（一般名：aliskiren；開発記号：SPP100）は、レニン阻害剤と呼ばれる高血圧症治療薬の新たなカテゴリーに属する初の薬剤であり、2006年第1四半期の米国申請に向け計画通り進捗しています。EUでの承認申請は、2006年第4四半期の予定です。フェーズIIIの試験データでは、1日1回経口投与による強力な2桁の血圧降下作用と24時間にわたる良好な血圧コントロールが示され、*Rasilez*の有効性と安全性が確認されました。*Rasilez*は単独療法および他の高血圧症治療薬との併用療法として開発されています。さらにこの薬剤は、ヒドロクロロチアジド（利尿剤）、ラミプリル（ACE阻害剤）あるいはアムロジピン（カルシウム阻害剤）との併用において、強力な相加的血圧降下作用を示しています。Speedel社と共同開発された*Rasilez*は、心血管系疾患の新たな危険因子であるレニン活性を阻害することにより、標的臓器を保護する潜在的可能性も有しており、広範なプロファイリング・プログラムを実施中です。フェーズIII試験の追加データは、2006年末までに得られる予定です。
- カルシウム拮抗剤のアムロジピンと「ディオバン」の固定用量合剤である*Exforge*¹は、2006年中の申請に向け予定通り進行中です。本剤は、最も多く処方されている2つの高血圧症治療薬の初の固定用量合剤となる見込みであり、2つの主要薬剤のベネフィットを1つの錠剤にまとめたものです。
- 1日1回の経口投与による再発性多発性硬化症治療薬として開発中のFTY720（fingolimod）は、欧州のいくつかの国において最初のフェーズIII試験を開始することを認められました。米国での同試験の開始については、現在FDAと協議中です。この主要試験は、再発性寛解型多発性硬化症の患者さんにおける2年間の二重盲検試験で、1.25mgと0.50mgの用量をプラセボと比較するものです。再発性寛解型多発性硬化症を対象とした2つ目の試験も2006年の後半に開始予定であり、1.25mgと0.50mgの用量をインターフェロンと比較します。2005年に発表された12カ月間のフェーズIIデータで

¹ ブランド名は当局による承認待ちの段階にある。この化合物はまだ承認申請されていない。

は、有意な再発率の低下が確認されました。全世界で200万人以上が多発性硬化症に患っていると推計され、若年成人における神経性障害の最大の原因となっています。

- **LDT600** (telbivudine)に関する主要な承認申請は、2006年第1四半期までにすべて完了する見込みです。米国では2005年12月にすでに申請されました。慢性B型肝炎の患者さんを対象としたフェーズIII試験であるGLOBE試験の結果は、2005年11月に発表されました。この試験結果によると、LDT600による治療を受けた患者さんは、現行の標準治療薬ラミブジンで治療した患者さんに比べ、1年後に評価されたすべてのウイルスマーカーにおいて優れた反応を示しました。この試験では、HBeAg陽性およびHBeAg陰性の患者さんにおいて、telbivudineがラミブジンと少なくとも同等の効果を示すことを証明するために設定された治療反応の主要エンドポイントの到達に成功しました。
- 2005年3月に発行された承認勧告を受け、FDAは2006年第1四半期に *Aclasta* (ゾレドロン酸 5 mg)の骨のパジェット病の適応の承認に関する決定を下すと見込まれています。本剤は、2005年5月にドイツで最初に発売され、他のEU主要国では2006年に発売する計画です。1年1回投与による骨粗しょう症に対する *Aclasta* の効果を実証するためのフェーズIII試験が現在進行中であり、米国とEUでの骨粗しょう症の適応に関する申請は、2007年に予定されています。
- 「**ゾレア**」(omalizumab)は、重症・難治性のアレルギー性喘息に対する初のモノクローナル抗体治療薬です。2005年10月にEUで承認を取得し、欧州の主要市場で順次発売を進めています。「ゾレア」は、多くの専門家から喘息治療における過去15年間で最大の進歩と評価されています。「ゾレア」は2003年6月に初めて米国で承認されて以来、約55,000人の患者さんに処方されていると推計されます。「ゾレア」はノバルティスファーマ社とGenentech社、Tanox社との提携により開発されています。
- *Exjade* (一般名：deferasirox；開発記号：ICL670)は、2005年11月、優先審査により世界で初めて米国で承認されました。成人および2才以上の小児の慢性輸血性鉄過剰症に対する初めてかつ唯一の1日1回経口投与の鉄キレート剤です。今回の承認により、鉄キレート療法が特に小児の治療において広まることが期待され、本剤により負担の大きい長時間の点滴治療に替わる新たな治療法を提供することができます。*Exjade* はスイスでもすでに承認されており、米国、オーストラリアとEUではオーファンドラッグ(希少疾病用医薬品)に指定されています。カナダ、オーストラリアとニュージーランドでは、優先審査品目に指定されています。また、その他世界各国でもすでに承認申請されています。
- **QAB149** (一般名：indacaterol)は、初の1日1回投与の持続型β₂作動薬となる可能性を持つ薬剤であり、2006年第1四半期にフェーズIII試験を開始する予定です。喘息および慢性閉塞性肺疾患(COPD)の両方の適応症で、グローバル主要試験の実施が計画されています。QAB149は作用の発現が早く、24時間にわたる疾患コントロールが期待されます。
- *Lucentis* (一般名：ranibizumab)は、滲出型加齢黄斑変性(AMD)治療の新たなゴールド・スタンダード薬となる可能性を持つ薬剤で、2006年第1四半期にEUでの申請が予定されています。ANCHOR試験のフェーズIIIデータでは、視力を維持あるいは改善するという1年間の主要有効性エンドポイントを達成しました。*Lucentis* は、米国における開発・販売の権利を保有しているGenentech社によって2005年12月に同国で承認申請されました。

コーポレート

法人収益/費用（純額）

第4四半期の法人費用（純額）は、製造物責任リスクに対する引当金増加などのいくつかの要因により、前年同期の4,400万米ドルの法人費用（純額）から増加し、1億7,900万米ドルとなりました。2005年の法人費用（純額）は、前年の3億4,600万米ドルに対し、5億600万米ドルとなりました。

純金融収益

第4四半期の純金融収益は、前年同期の6,600万米ドルから減少し、4,300万米ドルとなりました。買収により平均純流動資産が減少した結果、純金融収益が前年同期の2億2,700万米ドルから1億6,700万米ドルに減少しました。純流動資産に対する年間のリターンは、主に為替差益により前年の3.7%から上昇し、4.2%となりました。

関連会社からの収益

第4四半期における関連会社からの収益は、前年同期の2,300万米ドルから6,700万米ドルに増加しました。44%の株式を保有するカイロン社への投資は、インフルエンザ・ワクチン製造問題により600万米ドルの損失となった前年同期に対し、2,100万米ドルの収益となりました。ロシュ社への投資は4,300万米ドルの収益となりました。これは、ロシュ社の2005年第4四半期の純利益のうち当社持分の見積もり額7,200万米ドルから、無形固定資産の償却額2,900万米ドルを差し引いたものです。2005年の関連会社からの収益の合計は、前年の1億7,700万米ドルから増加し、1億9,300万米ドルとなりました。

バランスシート

2005年末のノバルティスの株主資本は、1年前から18億米ドル増加し、332億米ドルとなりました。これは、前年を上回る61億米ドルの当期純利益から、配当金支払額21億米ドル、為替差損20億米ドルおよびその他純株主資本の減少額2億米ドルを差し引いたものです。

2005年末現在の純流動資産は、2005年に行われた買収を反映し、期初の70億米ドルから45億米ドル減少し、25億米ドルとなりました。ヘキサル、イオン・ラブズおよびプリストル・マイヤーズ スクイブの北米OTC事業の買収費用は約88億米ドルでした。さらに、すでに行われていた合意に基づき追加的に取得したカイロン社の2%の新規発行株式の取得額は、3億米ドルでした。2005年末の負債比率は、2004年末の0.22:1から0.25:1となりました。

第4四半期においてノバルティスは、スイス証券取引所のセカンド・トレーディング・ラインを介した自社株の取得を行いませんでした。そのため、2005年にセカンド・トレーディング・ラインを介して取得した株式は、変わらず1,020万株、5億米ドルとなります。2004年8月の第4次自社株取得プログラムの開始以降、合計で2,540万株の自社株を12億米ドルで取得しました。セカンド・トレーディング・ラインを介した自社株取得プログラムにより、株式資本を1,020万株減少させる提案を次の年次株主総会に提出する予定です。

ノバルティスは、金融機関を除き、スタンダード&プアーズ（S&P）とムーディーズの2つの格付け機関から最上位の格付けを得ている世界でも数少ない企業の一つです。S&Pは、ノバルティスの長期債をAAA、短期債をA1+に格付けしており、一方のムーディーズは、それぞれAaa、P1に格付けしています。

キャッシュフロー

2005年の営業活動からのキャッシュフローは、力強い事業拡大と運転資本の厳格な管理により、前年から14億米ドルと大幅に増加し、81億米ドルとなりました。第4四半期における営業活動からのキャッシュフローは、4億米ドル増加し、23億米ドルとなりました。2005年のフリーキャッシュフロー（買収の影響を除く）は、前年から14億米ドル増加し、47億米ドルとなりました。

配当金

取締役会は、2006年2月28日に開催される年次株主総会において、1株当たり配当金を2004年の1.05スイスフランから10%増額し、1.15スイスフランとすることを提案します。これは、1996年12月のノバルティス設立以来、9年連続の増配となります。この提案が株主の皆様から承認されれば、発行済み株式に対して支払われる配当金総額は21億米ドルとなる見込みです。2005年の当期純利益に対する配当性向は、33%となります。2005年末の株価69.05スイスフランに基づく配当利回りは、2004年の1.8%に対し、1.7%となります。2005年度の配当金支払期日は、2006年3月3日と設定されました。2億5,810万株の自己株式を除いたすべての発行済み株式に対して、配当金が支払われます。

取締役の異動提案について

ノバルティス設立以来、当社の発展に対し中核的な役割を果たしてきたHelmut Sihler教授は、2006年2月28日の年次株主総会をもって取締役を退任します。Sihler教授が務めてきた独立性を堅持した筆頭取締役としての立場は、Ulrich Lehner教授により引き継がれます。Lehner教授は、独立性を堅持した筆頭取締役に加え、Hans-Jörg Rudloffとともに取締役会の副会長も委嘱されます。

定款変更提案について

取締役会は、定款第21条に規定されている、取締役の任期上限を12年間とする条項の廃止を株主に提案する予定です。

免責条項

本リリースには、現時点における将来の予想と期待が含まれています。従って、その内容に関して、また、将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる場合があることをご了解下さい。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けておりますForm 20-Fをご参照下さい。

ノバルティスについて

ノバルティスは、医薬品とコンシューマーヘルスにおける世界的リーダーです。ノバルティスグループ全体の2005年の売上高は322億米ドル（約3兆5,433億円）で、当期純利益は61億米ドル（約6,755億円）、研究開発費は48億米ドル（約5,330億円）でした。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約91,000人の社員を擁しており、世界140カ国以上で製品が販売されています。詳細はインターネットをご覧ください。 <http://www.novartis.com>

今後の報告予定

2006年2月28日	年次株主総会
2006年4月24日	第1四半期業績発表
2006年7月17日	第2四半期業績発表
2006年10月19日	第3四半期業績発表

本リリースは、英語版オリジナルの日本語訳（抜粋版）です。連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書、注記などは省略しています。これらの内容は英語版オリジナルをご参照下さい。

連結損益計算書（無監査）

2005年（1～12月）

	2005年		2004年		前年同期比		過去報告ベース
	百万米ドル	億円	百万米ドル	百万米ドル	百万米ドル	%	2004年 ⁽²⁾ 百万米ドル
売上高	32,212	35,433	28,247	3,965	14		28,247
その他収入	314	345	154	160	104		154
売上原価	-8,868	-9,754	-7,268	-1,600	22		-7,268
売上総利益	23,658	26,023	21,133	2,525	12		21,133
販売・マーケティング費	-9,802	-10,782	-8,873	-929	10		-8,873
研究開発費	-4,846	-5,330	-4,077	-769	19		-4,171
一般管理費	-1,742	-1,916	-1,540	-202	13		-1,540
その他収益/費用	-363	-399	-354	-9	3		-397
営業利益	6,905	7,595	6,289	616	10		6,152
関連会社からの利益	193	212	177	16	9		68
純金融収益	461	507	488	-27	-6		486
支払利息	-294	-323	-261	-33	13		-261
税引き前利益	7,265	7,991	6,693	572	9		6,445
課税額	-1,124	-1,236	-1,092	-32	3		-1,065
当期純利益	6,141	6,755	5,601	540	10		5,380
<i>帰属別内訳：</i>							
親会社株主	6,130	6,743	5,586	544	10		5,365
少数株主	11	12	15	-4	-27		15
平均発行済み株式数 （百万株）	2,332.8		2,355.5		-1		2,355.5
1株当たり当期純利益 （米ドル）⁽³⁾	2.63	289	2.37	0.26	11		2.28
希薄化後平均発行済み 株式数（百万株）	2,342.5		2,367.4		-1		2,367.4
希薄化後1株当たり当期 純利益（米ドル） ⁽³⁾	2.62	288	2.36	0.26	11		2.27

(1) 2005年の会計基準ベース。本業績報告は、2005年1月1日に適用された新国際財務報告基準（IFRS）を採用しており、報告上のその他変更も行われています。2004年の数値は、2004年にすでに会計基準の変更が行われていたとみなし変更した数値で示しています。詳細は、2005年財務報告書（2005 Financial Report）をご参照下さい。

(2) IFRS基準適用後の過去報告ベース。詳細は、2005年財務報告書（2005 Financial Report）をご参照下さい。

(3) 1株当たり当期純利益（EPS）は、親会社株主に帰属する当期純利益を基に計算されています。

連結損益計算書（無監査）

2005年第4四半期（2005年10～12月の3カ月間）（無監査）

	2005年 第4四半期		2004年 第4四半期 ⁽¹⁾	前年同期比		過去報告ベース 2004年第4四半期 ⁽²⁾
	百万米ドル	億円	百万米ドル	百万米ドル	%	百万米ドル
売上高	8,657	9,522	7,578	1,079	14	7,578
その他収入	96	105	52	44	85	52
売上原価	-2,517	-2,768	-2,051	-466	23	-2,051
売上総利益	6,236	6,859	5,579	657	12	5,579
販売・マーケティング費	-2,629	-2,891	-2,500	-129	5	-2,500
研究開発費	-1,472	-1,619	-1,140	-332	29	-1,225
一般管理費	-508	-558	-452	-56	12	-452
その他収益/費用	-139	-152	13	-152		9
営業利益	1,488	1,636	1,500	-12	-1	1,411
関連会社からの利益	67	73	23	44	191	-3
純金融収益	110	121	129	-19	-15	130
支払利息	-67	-73	-63	-4	6	-63
税引き前利益	1,598	1,757	1,589	9	1	1,475
課税額	-246	-270	-235	-11	5	-208
当期純利益	1,352	1,487	1,354	-2		1,267
帰属別内訳：						
親会社株主	1,350	1,485	1,351	-1		1,264
少数株主	2	2	3	-1	-33	3
平均発行済み株式数 （百万株）	2,335.5		2,337.6			2,337.6
1株当たり当期純利益 （米ドル）⁽³⁾	0.58	63	0.58			0.54
希薄化後平均発行済み株式数（百万株）						
	2,350.1		2,349.5			2,349.5
希薄化後1株当たり当期純利益（米ドル） ⁽³⁾						
	0.57	62	0.58	-0.01	-2	0.54

(1) 2005年の会計基準ベース。本業績報告は、2005年1月1日に適用された新国際財務報告基準（IFRS）を採用しており、報告上のその他変更も行われています。2004年の数値は、2004年にすでに会計基準の変更が行われていたとみなし変更した数値で示しています。詳細は、2005年財務報告書（2005 Financial Report）をご参照下さい。

(2) IFRS基準適用後の過去報告ベース。詳細は、2005年財務報告書（2005 Financial Report）をご参照下さい。

(3) 1株当たり当期純利益（EPS）は、親会社株主に帰属する当期純利益を基に計算されています。

事業部門別売上高

2005年(1~12月)

	2005年		2004年	前年比(%)	
	百万米ドル	億円	百万米ドル	米ドルベース	現地通貨ベース
医薬品	20,262	22,288	18,497	10	9
サンド	4,694	5,163	3,045	54	54
コンシューマーヘルス	7,256	7,981	6,705	8	8
売上高 計	32,212	35,433	28,247	14	13

2005年第4四半期(2005年10~12月の3カ月間)(無監査)

	2005年第4四半期		2004年第4四半期	前年同期比(%)	
	百万米ドル	億円	百万米ドル	米ドルベース	現地通貨ベース
医薬品	5,248	5,772	4,969	6	9
サンド	1,573	1,730	867	81	91
コンシューマーヘルス	1,836	2,019	1,742	5	9
売上高 計	8,657	9,522	7,578	14	18

事業部門別営業利益

2005年(2005年1~12月)(無監査)

	2005年			2004年 ⁽¹⁾			過去報告ベース 2004年 ⁽²⁾
	百万米ドル	億円	売上高比(%)	百万米ドル	売上高比(%)	前年同期比(%)	百万米ドル
医薬品	6,014	6,615	29.7	5,366	29.0	12	5,252
サンド	342	376	7.3	263	8.6	30	240
コンシューマーヘルス	1,055	1,160	14.5	1,006	15.0	5	954
法人収益/費用(純額)	-506	-556		-346			-294
売上高 計	6,905	7,595	21.4	6,289	22.3	10	6,152

(1) 2005年の会計基準ベース。詳細は、2005年財務報告書(2005 Financial Report)の注記をご覧ください。

(2) IFRS基準適用後の過去報告ベース。詳細は、2005年財務報告書(2005 Financial Report)の注記をご覧ください。

2005年第4四半期(2005年10~12月の3カ月間)(無監査)

	2005年第4四半期			2004年第4四半期 ⁽¹⁾			過去報告ベース 2004年第4四半期 ⁽²⁾
	百万米ドル	億円	売上高比(%)	百万米ドル	売上高比(%)	前年同期比(%)	百万米ドル
医薬品	1,358	1,493	25.9	1,341	27.0	1	1,251
サンド	119	130	7.6	28	3.2	325	23
コンシューマーヘルス	190	209	10.3	175	10.0	9	163
法人収益/費用(純額)	-179	-196		-44			-26
売上高 計	1,488	1,636	17.2	1,500	19.8	-1	1,411

(1) 2005年の会計基準ベース。詳細は、2005年財務報告書(2005 Financial Report)の注記をご覧ください。

(2) IFRS基準適用後の過去報告ベース。詳細は、2005年財務報告書(2005 Financial Report)の注記をご覧ください。

補足資料：2005年（1～12月）の売上上位20医薬品の売上高（無監査）

製品名	適応症	米国			米国以外			合計			
		百万米ドル	億円	前年同期比 現地通貨 ベース（％）	百万米ドル	億円	前年同期比 現地通貨 ベース（％）	百万米ドル	億円	米ドル ベース（％）	現地通貨 ベース（％）
ディオバン/コディオバン	高血圧症	1,551	1,706	17	2,125	2,337	20	3,676	4,043	19	19
グリベック	慢性骨髄性白血病	524	576	42	1,646	1,810	28	2,170	2,387	33	32
ゾメタ	悪性腫瘍による骨合併症	704	774	12	520	572	14	1,224	1,346	14	13
ラミシール（グループ）	真菌症	538	591	2	595	654	-6	1,133	1,246	-2	-2
ロトレル	高血圧症	1,075	1,182	17				1,075	1,182	17	17
ネオーラル/サンディミュン	移植	150	165	-17	803	883	-4	953	1,048	-6	-6
サンドスタチン（グループ）	先端巨大症	376	413	1	520	572	13	896	985	8	8
レスコール/ローコール	高コレステロール血症	257	282	-10	510	561	7	767	843	1	1
ボルタレン（グループ）	炎症/疼痛	5	5	-44	684	752	8	689	757	8	7
トリレプタール	てんかん	462	508	18	153	168	17	615	676	19	18
トップ10製品 計		5,642	6,206	13	7,556	8,311	13	13,198	14,517	13	13
フェマーラ	乳がん	242	266	46	294	323	33	536	589	39	38
ビスサイン	加齢黄斑変性	183	201	-12	301	331	24	484	532	8	7
エクセロン	アルツハイマー病	172	189	-4	295	324	18	467	513	11	9
ゼルノーム/ゼルマック	過敏性腸症候群	357	392	43	61	67	17	418	459	40	39
テグレートール（CT/XR錠含む）	てんかん	109	119	6	284	312	-5	393	432	-1	-2
ミアカルシック	骨粗しょう症	229	251	-3	136	149	-5	365	401	-3	-4
フォラジール	ぜんそく	14	15	8	318	349	2	332	365	3	2
コムタン（グループ）	パーキンソン病	133	146	24	145	159	53	278	305	39	38
エリデル	アトピー性皮膚炎	192	211	-31	78	85	8	270	297	-23	-23
ファムビル	ウイルス感染	151	166	-6	103	113	4	254	279		-2
トップ20製品 計		7,424	8,166	11	9,571	10,528	13	16,995	18,694	13	12
その他製品		723	795	10	2,606	2,866	-6	3,329	3,661	-2	-3
会計方法変更に伴う調整を除いた医薬品売上高		8,147	8,961	11	12,177	13,394	8	20,324	22,356	10	9
前年の米国でのリベート調整額		-62	-68					-62	-68		
医薬品売上高 計		8,085	8,893	10	12,177	13,394	8	20,262	22,288	10	9

補足資料：2005年第4四半期(2005年10～12月)の売上上位20医薬品の売上高（無監査）

製品名	適応症	米国			米国以外			合計			
		百万米ドル	億円	前年同期比 現地通貨 ベース(%)	百万米ドル	億円	前年同期比 現地通貨 ベース(%)	百万米ドル	億円	米ドル ベース(%)	現地通貨 ベース(%)
ディオバン	高血圧症	417	458	29	577	634	23	994	1,093	20	26
グリベック	慢性骨髄性白血病	153	168	53	437	480	26	590	649	27	32
ゾメタ	悪性腫瘍による骨合併症	187	205	13	127	139	9	314	345	9	11
ラミシール(グループ)	真菌症	127	139	1	124	136	-23	251	276	-17	-13
ロトレル	高血圧症	297	326	17				297	326	17	17
ネオーラル/サンディミュン	移植	39	42	-11	202	222	-3	241	265	-10	-5
サンドスタチン(グループ)	先端巨大症	95	104	-11	129	141	15	224	246		3
レスコール/ローコール	高コレステロール血症	70	77	-4	126	138	6	196	215	-3	3
ボルトレン(グループ)	炎症/疼痛	0	0	-100	169	185	0	169	185	-6	-1
トリレプタール	てんかん	119	130	13	38	41	10	157	172	11	12
トップ10製品 計		1,504	1,654	16	1,929	2,121	11	3,433	3,776	9	13
フェマーラ	乳がん	67	73	31	79	86	32	146	160	27	32
ビスサイン	加齢黄斑変性	31	34	-44	76	83	18	107	117	-14	-9
エクセロン	アルツハイマー病	45	49	2	76	83	22	121	133	11	14
ゼルノーム/ゼルマック	過敏性腸症候群	106	116	86	17	18	13	123	135	71	69
テグレートール(CT/XR錠含む)	てんかん	28	30	4	68	74	-16	96	105	-14	-11
ミアカルシック	骨粗しょう症	51	56	-7	34	37	-6	85	93	-9	-6
フォラジール	ぜんそく	3	3	-25	78	85	3	81	89	-7	
コムタン(グループ)	パーキンソン病	36	39	24	39	42	42	75	82	29	33
エリデル	アトピー性皮膚炎	36	39	-52	17	18	-9	53	58	-44	-42
ファムビル	ウイルス感染	41	45	2	25	27	4	66	72	2	3
トップ20製品 計		1,948	2,142	12	2,438	2,681	11	4,386	4,824	7	11
その他製品		208	228	35	654	719	-6	862	948	-3	1
会計方法変更に伴う調整を除いた医薬品売上高		2,156	2,371	14	3,092	3,401	7	5,248	5,772	6	9
前年の米国でのレポート調整額		0	0		0	0		0	0		
医薬品売上高 計		2,156	2,371	14	3,092	3,401	7	5,248	5,772	6	9